

エピソード39

医師のアドバイスに学校も
対応して欲しいと保護者が
言っています。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が
あります。
エデュサポネットのファシリテーターです。



小学校で学級担任をしていた時の
経験を話していただきます。

30代半ばに受け持ったひでやくくんはこだわり
が強く、友達との関係も対応が必要なお子さん
でした。保護者からも相談がありました。

ひでやくくんの特性を考慮して、丁寧な指導をして
欲しいという要望が多かったです。保護者は、
私の対応に納得がいかず不信感をもって
いたと思います。





保護者はどのように指導して欲しい
と言ったのですか。

ひでやくくんは通院していました。保護者からは、
医師が、学校でこうしてもらおうと良いとか、こん
な接し方がひでやくくんには合っている、と言っ
てると聞きました。

医師からアドバイスがあったから、先生もそうし
てほしいと言っていました。





先生は、どのように対応されたのですか。

それを聞いてその通りだと思えることが多かったのですが、私の力量の無さもあり、正直なところ大人数のクラスの中では、中々対応できないと思えることが多かったです。

私が、対応は難しいと思えることがあり、保護者との相談も互いに納得感がないことが多かったです。





その後、先生はどうしたのですか。

保護者の伝言だけではなく、もう少し具体的に聞きたいと思い、直接、医師と面談できないだろうかと、保護者に話してみました。それを聞いた保護者の表情が突然変わりました。

「私も、ひでや君への指導のヒントになるようなら、是非、医師に会ってみたい」と話すと、保護者は喜んでくれました。





保護者と一緒に、病院に行かれたんですね。

医師も担任である私との面談を喜んでくれ、ひでやくんの症状及び学校で出来そうな対応についてのヒントをくれました。

保護者が言っていた、医師のアドバイスも、内容や方法が違っていたこともわかりました。





その後のことを教えてください。

保護者と一緒に医師に面談してから、ひでやくんへの対応が多少変化したと思います。でも、劇的に変わることはできなかったと思います。

ただし、保護者からの電話内容や私への態度はかなり変化しました。





どうして保護者の態度が変わったと
考えましたか？

担任である私が一緒に面談したことで、
ひでやくんへの対応を一緒に考えてくれて
いると思ったのだと感じました。

今まで、保護者からすると、いくら話して
も担任は真剣にひでやくんへの対応を考え
てくれていないと感じていたと思います。





先生が保護者と一緒に医師と面談したのが
功を奏したのですね。

保護者にとっては、私が医師の所に同行するとい
うことが、保護者の悩みを共有して、一緒に
ひでやくんに対応をしているという納得感に
繋がったのかなと思いました。

その後、ひでやくんは痙攣を起こすこともありま
したが、家で保護者が話を聞いて、私にフィード
バックしてくれるなど、協力してくれました。





なみちちゃんの一言

- 教師が保護者と一緒に医師のところに足を運び、面談をすることで、保護者と関係を築くことができるのですね。
- 医師の具体的なアドバイスは参考になり、学校での指導に活かすことができます。
- 保護者、医師とつながることで、子どもにとって学校の中で過ごしやすい環境をつくっていくことができる場合があります。

お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)